

# Comfort Cruising

## 快適性と スポーツ性の 理想的な両立



### TOYO TIRES PROXES C1S

Mercedes-benz  
E350



より上質な輸入車ライフを送るために「認定中古車の購入時にディーラーでタイヤを新調しよう」というのは、認定中古車.comが発信し続けている提案である。当たり前のことだけれどつい忘れてしまいがちなそのことをコンセプトにしてWEBでは連載も掲載中だ。

この頁ではTOYO TIRES・プロクセスシリーズの新製品「C1S(シーワン・エス)」を認定中古車.comがいち早く試乗する機会を得たのでその走行感覚を報告しよう。

C1Sは上級セダンへの装着を想定したコンフォート志向のタイヤだ。つまり、認定中古車.comでもテスト・ドライブを行って、高く評価した「CT01」の後継と考えていいだろう。今回、我々がサンプルカーに選んだのは、誰もが認める上級セダンのスタンダード、メルセデス・ベンツ Eクラスである。実はこの車両、TOYO TIRESがテスト・ドライブのために使用するなかの1台だ。サーキットも走らせるからだろう、エア・サスペンションが装着され若干のローダウンが施されている。履かせたC1Sはノーマルの2インチ・アップとなる245/40R18だ。E63 AMGでは18インチが標準となっているから、かためられた足には適正サイズと判断した。

インプレッションに入る前にまずは写真をご覧ください。試乗車はAMGのエアロパーツとO・Zのアルミホイールも取り付けられているから、スポーティで精悍なイメージに仕上がっている。W211型オーナーにはお手本となるカスタマイズかもしれない。

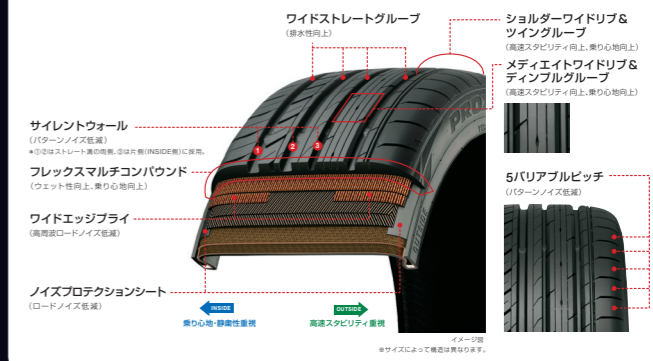
さて、本題に入ろう。まずは国道246号線と明治通りを50km/hほどで走行してみる。先代のCT01は、静粛性と乗り心地の向上にプライオリティが置かれたタイヤだった。C1Sでは新たに非対称パターンが採用されているので、一般道でのコンフォート性は興味のあるところ。果たして、C1Sはワイドエッジプライやノイズプロテクションシートなど

の技術をさらにブラッシュアップさせたようだ。18インチの“ヨソマル”でも不快な突き上げとは無縁、粗い路面を走行しても耳障りなロードノイズはほとんど聞こえてこない。もちろん、エアサスとEクラスが誇る高い遮音性が貢献しているのは言うまでもないけれど、C1Sのコンフォート性は期待以上のレベルと言える。そして、首都高速でもその印象が変わることがなかった。目地段差を乗り越える際の震動や騒音もごく僅かなものだ。しなやかにプレミアム感のある乗り心地は、世界のトップレベルに達しているとみて間違いなさそう。

東名高速に入り、アクセルペダルを深く踏み込む。そして、走行車線から追い越し車線へとレーンチェンジ。その瞬間、CT01との感覚の違いに驚かされた。E350は豪華装備を満載する重量級サルーンだ。車重は1680kgに達する。その巨体が微舵を与えると、間髪入れずヒラリと追い越し車線に移動したのだ。18インチ+“ヨソマル”の威力もあるだろうが、高速でのパフォーマンスはCT01よりあきらかに向上している。高速コーナーでもイメージしたとおりのラインが描ける。まさにスポーツ系ハイグリップ・タイヤの感覚だ。それと同時にパターンノイズも低減されているのだから恐れ入る。C1Sが非対称パターンを採用し、また周方向グルーブやサイブを駆使して柔・動のバランスを考えたパターンデザインとした理由はここにある。そう、高速道路での静粛性/乗り心地と運動性能の両立を目指したのだ。それは見事に成功していると報告できるだろう。

C1Sはプロクセスシリーズのなかのコンフォート系に属しているが、静かで乗り心地がいいだけのタイヤではない。プラス・アルファがあるのだ。スポーツ系に匹敵する運動性能も手に入れたのである。特に高速でのスタビリティは高く評価できる。そう、コンフォート系タイヤといえど、もう運動性能に妥協する必要はないのだ。これこそが、C1Sの

### PROXES C1Sサイレントストラクチャー 静粛性と高速スタビリティを両立。



開発陣がこだわったコンセプトだろう。

C1Sは、特にハイパワーを誇る欧州のプレミアムセダンにマッチするタイヤだ。硬めの足を持つメルセデス・ベンツ/BMW/アウディなどのドイツ製アッパークラス・セダンに組み合わせるとその実力を存分に発揮するだろう。サイズも15~22インチまでとワイドにラインナップされているから、大径タイヤを履くAMGなどのコンプリートカー・オーナーにもぜひお勧めしたい。

Photo: 丸山博人